

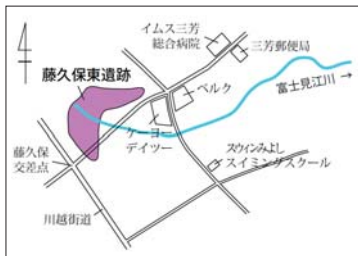
教育だより

発掘調査で新たな発見！ 明らかになる太古の三芳

町内には、現在32カ所の遺跡があり、毎年これらの遺跡で行われる発掘調査では、「三芳の歴史」に新たなページを書き加える発見があります。今回は、近年行われた調査の中から4箇所を取り上げ、それぞれの調査により明らかになってきた「三芳の歴史」をご紹介します。



藤久保東遺跡は、藤久保地区にあります。過去の調査では、今から約3万年前の石器が出土し、県内で最も古い遺跡のひとつとして知られています。また、石器を作った跡や調理の跡が数多く見つかり、これまでに1万点を超える石器や調理に使った焼石などが出土しています。



本村南遺跡は、竹間沢地区にあります。平成19年度の調査では、今から約2,000年前の弥生時代の住居跡や溝跡が見つかりました。



なかでも、溝跡は幅約3m、深さ約15mと大きなものです。この溝は、水が流れていた痕跡が見られないことから、集落を囲んで外敵や獣の侵入を防ぐための環濠であった可能性もありますが、もう少し調査が必要です。また、溝の中から大量の土器や川原石などが見つかりました。溝が使われなくなった後、投げ入れられたものと考えられます。



▲発見された溝跡。どのような目的で作られたのでしょうか。



▲溝跡から出土した土器片を接合復元したもの。

本村南遺跡では、他の場所でも同じ時代の住居跡やお墓の跡がいくつも見つかっていることから、弥生時代にはこの地に人々が集まり、ムラが存在していたことがわかります。



保埜遺跡は、藤久保地区にあります。平成17年度に行われた調査は、昔から鉄クズが拾えることから、地元の方が「カナクン山」と呼んでいた場所で行われました。発掘調査の結果、まさに今から約1,300年前、奈良時代の製鉄の作業場が見つかりました。隣りのふじみ野市では、同じく奈良時代の東台遺跡という大きな製鉄の遺跡がありますが、三芳町で製鉄の遺跡が見つかったのは初めてのことです。



▲上段は狩りなどに使った石器。下段は出土した石器を接合したもの。

遺跡の近くには富士見川が流れており、人々は水を求めて集まってくる獣を捕えるため、この地を訪れて石器を作ったり、捕えた獣を解体して調理などをして暮らしていたのでしょう。藤久保東遺跡では約3万年前、約1万年前までのおよそ2万年もの長い間、人々が繰り返し訪れて暮らしていたことがわかっており、現在も多くの人々が暮らす藤久保地区は、太古の昔も住み良い場所だったようです。



中東遺跡は上富地区にあり、近年その存在が明らかになってきた遺跡です。昨年からは今年にかけての発掘調査では、3,000点を超える石器が出土し、約2万8千年前、約2万年前まで人々が石器を作った跡や狩りをしてきた場所であったことがわかりました。遺跡からは、黒曜石というガラス質の石で作られた石器が数多く見つかり、黒曜石は埼玉県では採れない石で、中東遺跡で



出土した黒曜石の石器を分析したところ、伊豆の相峠で採取された黒曜石であることがわかりました。何らかの方法で伊豆の黒曜石を入手し、この地で石器を作っていたようです。また遺跡周辺には、藤久保東遺跡と異なり、現在流れる川はありません。しかし、水がなければ人々は生きていけません。実は太古の昔、中東遺跡のすぐ近くを川が流れていたのです。しかし、その川は旧石器時代の終わり頃には水量が少なくなり、次第に埋まってしまいました。その後、人々がこの地に再び暮らしはじめるのは、江戸時代中頃の三富開拓を待たなければならなかったのです。



▶手前の大きな穴は、粘土を採掘するための穴。その隣には、製鉄の作業場が見つかりました。



▲藤久保東遺跡の解説看板
▲南止遺跡の解説看板

また、調査で分かったことを広く皆さんに知っていただくため、発掘調査の成果をまとめたパンフレットを刊行しています。今回紹介した4箇所の調査成果についても、町立歴史民俗資料館または生涯学習課で無料配布しています。なお、平成22年2月から3月にかけて、役場1階ロビーにて「第2回発掘された三芳の歴史」の展示を行う予定です。役場にお越しの際はぜひ、ご覧ください。

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



1月の予定

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
★31						

〈中央図書館〉
★新春おはなし会
申込み受け付け中。ご家族でどうぞ！
(ゆかいな昔話・小道具を使ったお話・紙芝居など)
10:00～10:45 5歳、1,2年生～おとなまで
(定員35名) ※未就学児は保護者同伴でお願いします。
11:00～12:00 3,4,5,6年生～おとなまで
(定員40名)
■ぐりぐりタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
第1・3金曜日 (保護者同伴)
11:00～11:15 6ヶ月～1歳
11:20～11:40 2・3歳～
第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳
♥とよかん・くらぶー会員制-第4土曜日
(読み聞かせとブックトークで本に親しむ会)
10:10～11:00 1・2年生 40名
11:10～12:00 3～6年生 50名

〈竹間沢分館〉
■竹間沢ぐりぐりタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
11:00～11:30 1～4歳
◆スイミーおはなし会
(絵本・紙芝居・ブックトーク)
第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生



【児童書】おちんじかんきたら

シユナイイス・カー作 購海耕平訳
児童館出版 1994年9月発行
請求記号 Eお
シユナイイスとお母さんがお茶の時間にしようとお話をお話した、ちよつとその時、友達のベルがなり、やつてきたのは大きなトラライギリスで長年読みつがれる酒落たユーモア絵本。



【児童書】ウン！ドン！

チェンジャンホン作・絵 平岡敦訳
徳間書店 2007年6月発行
請求記号 Eう
人間に我が子を殺され、人間を憎み襲い続けるトラがいました。そこで王子がその怒りをしずめるためにトラに差し出され、母トラとトラに育てられた王子の追放満点絵本。



【児童書】中国のおかし話より

大島英太郎文・絵
福音館書店 2009年4月発行
請求記号 Eち
昔、虎はのろまで獲物を捕るのが下手で、そこで、猫に上手な獲物の捕り方を教わり、すべの技を身につけたのですが、トラ、ネコの生態の由来を語る中国昔話絵本。



【児童書】山奥に住む蹄のすきなトラ

金森製作再話 鄭城香画
福音館書店 1997年11月発行
請求記号 Eお
山奥に住む蹄のすきなトラ。ある狩りの最中つい踊ってしまい獲物を逃がし、仲間山から追いつかれました。ところが不思議な力を持つようになり、韓国・朝鮮の昔話。

健康スポーツライフ

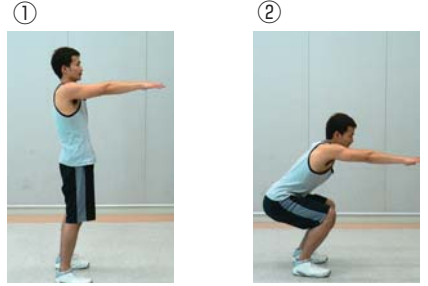
このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。
問い合わせ スポーツ振興課(総合体育館内) ☎258-0311

1月11日(祝) 成人の日レッスン

成人の日になんだレッスン・イベントをご用意しています。ご利用は、初回講習会を受講された方に限ります。
詳細は、総合体育館フィットネスルーム(☎258-0391)までお問い合わせください。

少人数制レッスン

少人数制レッスン(定員15名、親子ピクスのみ20組)で、一人ひとりにより細やかな指導が可能となりました。計7回レッスン3500円に変更致します。
料金 3500円(7回)
予約方法 電話または直接来館
予約開始日 1月7日(木) 午前10:00～
①レッスン名 ②日程 ③時間 ④担当者 ⑤会場
【1】①親子ピクス ②2/2.9.16.23、3/2.9.16
③10:30～11:30 ④戸井 ⑤武道場
※親子ピクス対象年齢1～3歳
【2】①癒しのヨガ ②2/2.9.16.23、3/2.9.16
③11:30～12:30 ④大塚 ⑤多目的室
【3】①太極拳(48式) ②2/2.9.16.23、3/2.9.16
14:15～15:15 ④北 ⑤武道場



①⇒②この動作を10秒かけてしゃがみ10秒かけて元に戻してください。これを朝起きて10回×2セットおこなってください。
食べ過ぎはもちろん注意して、寒い冬をお過ごしください。

教育トピックス

動物たちのふれあいが教えてくれたもの
「かわいー！」といった声が聞こえてきました。
聴診器で心臓の音を聞く体験では、初めて聞く自分の心臓の音に感動し「ドクン、ドクン」と口まねをしている児童もいました。そして、いよいよウサギの心臓の音です。獣医さん方に聴診器を当ててくれました。子どもは心臓の音が聞こえてくるまで目を輝かせながら待っています。すると、人間のよりもはるかに速いウサギの心臓の鼓動に、多くの児童が「速ーい！」と感想を口にします。中には「風みたーい！」「地震みたーい！」などと感想を述べる子どももいました。

11月10日、唐沢小学校の多目的教室。集まっているのは、1年生。部屋の前には、時々ガゴゴンと音がする段ボール箱があります。その脇に白衣を着て聴診器にした3人の男の人が立っています。そして、正面にはパソコンとプロジェクターがセットされ、スクリーンにはかわいらしいウサギの絵が映し出されています。子どもたちは「何と違う雰囲気。期待と不安が入り交じった、緊張したまなざしで座っています。」
生命の尊さを知ってもらうために、今年度から新たな取組としての「獣医師による出前授業」の日です。出前授業は全小学校で行われ、前半・後半の2部構成の授業です。前半は獣医師の先生から、ウサギの性質や抱き方などについての話を聞きました。ウサギの耳がどうして大きいのか、果穴の中はどのような構造になっているのかを学びました。後半は、自分の手でウサギを抱き、自分の耳で聴診器を使って心臓の音を聞くという体験でした。
初めてウサギを抱くという児童がほとんどでした。はじめは怖がっていた子ども、だんだんと慣れてきて、あちこちから「温かい！」「毛が柔らかい！」



三芳の文化財

三芳村誕生二〇〇年
―太陽暦と三芳の暮らし―

明治五年(一八七二)二月九日に明治新政府は西洋先進国に習い、太陰暦(旧暦)を太陽暦(新暦)に改めるという太政官布告を出した。明治五年二月三日(旧暦)を、明治六年一月元旦、以降一年を三六五とし四年に一度の閏年を設けた。という現代と同じ暦が採用された。しかし、この暦は公式の場では使われたが、多くの国民は新暦には馴染めず、一般化するには歳月を要した。
公的な場での太陽暦は、学校などで積極的に採用された。例えば、三芳でも元旦の日(二月一日)に児童を学校に招集し、校長講話と組白まんじゅうなどを配り、新年を祝った。これは、生活の中に太陽暦を浸透させたという国策でもあった。しかし、三芳の人たちは元旦に日章旗(日の丸)を門口に掲げ、その一日は農事を休むが、一月二日から三芳は、前に使ったが農業中心の村。この太陽暦をめぐっての生活は馴染み増かったようである。新暦の正月を挟んだ前後にやっておかなければならない作業がある。正月、雑木林の作業は新暦正月頃がピークを迎える。堆肥の確保のために雑木林の落ち葉掃きは必要不可欠であるし、雑木林の薪切りも新

暦正月頃の仕事であった。
新暦一月中旬頃まで、畑もさつまいも掘りや麦撒きで忙しい。それから畑の作業が一段落し、いよいよ雑木林の作業に入る。新暦二月の下旬には雑木林の下草刈りなどを行い一月になる頃から落ち葉を掃き始め、新暦二月初めの立春前までに終わらせる。三芳付近では、雪や雨の日は掃き難くなる。そればかりでなく落ち葉は濡れると急速かつ高温で発酵を始める。さつまいもの温床に使う落ち葉は、高温になりすぎると床のさつまいもを痛めてしまい発芽を悪くさせる。
薪切り出しは冬至(新暦十二月二〇日頃)から立春(新暦二月三日頃)までと言われる。この季節の樹木は地下水を吸い上げない。その頃に切り出した薪は、カビや腐敗の心配がない。薪は東洋へ燃料として出荷する商品、粗悪品は出荷できない。三芳では、そんな季節と合致した作業があった。新暦で正月を迎えるという事は浸透せず、こうして正月や旧暦で正月を迎える暮らしが続いた。
三芳で現在の新暦正月を迎えるようになるのは昭和二十年代後半からである。燃料の中心が薪から石油やガスに変わり、薪切りも新法が石くなり、さらには雨を防ぐビニールシートが普及してからのことである。